

午後

問 題

◎ 指示があるまで開かないでください。

社 — 18

(18年1月29日 13時30分～15時35分)

注 意 事 項

1 受験番号等の記入方法

はじめに、解答用紙に氏名を記入し、男女のいずれかを○で囲んでください。次に、右側の一番上の欄に受験番号を記入し、その下のマークシートの欄には、受験番号の英字及び数字に対応する○を、次表の例にならって塗りつぶしてください。

(例) 受験番号 S 0 1 1 - 2 3 4 5 6 の場合

社会福祉士国家試験 (午後) 解答用紙

氏名	福祉太郎
性別	<input checked="" type="radio"/> 男 · 女

	S	0	1	1	-	2	3	4	5	6
受 験 番 号	●	●	○	○	●	○	○	○	○	○
	①	①	●	●	○	①	①	①	①	①
	②	②	○	○	○	●	②	②	②	②
	③	③	○	○	○	○	●	③	③	③
	④	④	○	○	○	○	○	●	④	④
	⑤	⑤	○	○	○	○	○	○	●	⑤
	⑥	⑥	○	○	○	○	○	○	○	●
	⑦	⑦	○	○	○	○	○	○	○	○
	⑧	⑧	○	○	○	○	○	○	○	○
	⑨	⑨	○	○	○	○	○	○	○	○

(注意) この場合、0も必ず塗りつぶしてください。

2 午後の試験問題数は70問で、解答時間は2時間5分です。

3 解答方法

(1) 各問題には1から5まで五つの答えがありますので、そのうち、問題に対応した答えを一つ選び、次の例にならって解答用紙に解答してください。

(次ページに続く)

〔例〕 問題 201 次のうち、県庁所在地でない市を一つ選びなさい。

- 1 青森市
- 2 仙台市
- 3 川崎市
- 4 高松市
- 5 福岡市

正答は「3」ですので、解答用紙の

問題 201 ① ② ③ ④ ⑤ のうち、 ③ を塗りつぶして、

問題 201 ① ② ③ ④ ⑤ としてください。

(2) 採点は、光学式読取装置によって行いますので、解答用紙への解答は、HBの鉛筆を使用し、○の外にはみださないように濃く塗りつぶしてください。シャープペンシルは使用できません。

良い解答の例……………●

悪い解答の例……………

(このような場合は、正答であっても)
解答したことになりません。

(3) 一度解答したところを訂正する場合は、消しゴムで消し残りのないように完全に消してください。鉛筆の跡が残ったり、 のような消し方などをした場合は、訂正又は解答したことになりませんので注意してください。

(4) 1問に二つ以上解答したときは、誤りになります。

(5) 解答用紙は、折り曲げたり、チェックやメモなどで汚したりしないよう特に注意してください。

4 その他の注意事項

(1) 印刷不良や落丁があった場合は、手を挙げて試験監督員に連絡してください。

(2) 問題の内容についての質問には、一切お答えできません。

老人福祉論

問題 81 老人保健法に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 保健所は、その管内の市町村における老人に対する医療等以外の保健事業の実施に関する計画を定めなければならない。
- B 市町村は、その管内を越える広域的な見地から、医療等以外の保健事業の供給体制の確保に関する計画を定めなければならない。
- C 平成17年の老人保健法の改正により、市町村老人保健計画は、市町村老人福祉計画及び市町村介護保険事業計画と一体のものとして作成されなければならないとされた。
- D 都道府県は、市町村が行う医療等以外の保健事業の実施に関し、都道府県が設置する保健所による技術的事項についての協力その他市町村に対する必要な援助及び市町村相互間の連絡調整を行う。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | × |
| 2 | ○ | × | ○ | ○ |
| 3 | ○ | × | ○ | × |
| 4 | × | ○ | × | ○ |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

問題 82 シルバーサービスの展開に重要な影響を及ぼした次の事項を古いものから順に並べた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 社団法人シルバーサービス振興会設立
- B 有料老人ホーム設置運営指導指針策定
- C 「WAC法」制定
- D 「PFI法」制定

(注) 1 「WAC法」とは、「民間事業者による老後の保健及び福祉のための総合的施設の整備の促進に関する法律」のことである。

2 「PFI法」とは、「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律」のことである。

(組み合わせ)

- 1 A→B→D→C
- 2 A→C→D→B
- 3 B→A→C→D
- 4 B→C→A→D
- 5 C→B→D→A

問題 83 指定介護老人福祉施設における施設サービス計画に関する次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 計画担当介護支援専門員は、施設サービス計画の原案の内容について入所者又はその家族に対して説明し、文書により入所者の同意を得なければならない。
- B 施設サービス計画の実施状況の把握(モニタリング)は、少なくとも3か月に1回は行わなければならないと法定化されている。
- C 計画担当介護支援専門員は、施設内のサービス担当者会議の開催やサービスの提供にあたる他の担当者に対する照会等により、当該施設サービス計画の原案の内容について、他の担当者から、専門的な見地からの意見を求めるものとされている。
- D 施設サービス計画は、施設職員によって提供されるサービスの範囲内で作成しなければならない。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | × | ○ | × |
| 2 | ○ | × | × | ○ |
| 3 | × | ○ | ○ | × |
| 4 | × | ○ | × | ○ |
| 5 | × | × | ○ | × |

問題 84 認知症高齢者に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 認知症高齢者のアセスメントでは、コミュニケーション障害の程度と内容を知る必要がある。
- B 行動障害(BPSD)は、基本的な障害に加えて不安感・ストレス・身体不調などの諸要因が作用して引き起こされる。
- C 物盗られ妄想の言動は、認知症の初期のみに見られる症状である。
- D 思い込みの激しい人には、混乱を避けるため、実際の事実を確認できるように対応する。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | × |
| 2 | ○ | × | ○ | × |
| 3 | ○ | × | × | ○ |
| 4 | × | ○ | ○ | ○ |
| 5 | × | ○ | × | ○ |

問題 85 介護保険制度における住宅改修に関する次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 要介護認定で「要支援」と認定された高齢者も居宅介護住宅改修費支給の対象になる。
- B 住宅改修費支給申請書に添付する書類として、介護支援専門員が住宅改修を必要とする理由を記載した書類を作成した場合、別途そのための費用を本人から徴収することができる。
- C 平成17年4月1日現在、厚生労働大臣が定める居宅介護住宅改修費支給限度基準額は、20万円である。
- D 居宅介護住宅改修費の支給は、対象となる高齢者一人につき1回を限度としている。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | ○ | × | ○ |
| 3 | × | ○ | × | ○ |
| 4 | × | × | ○ | ○ |
| 5 | × | × | ○ | × |

問題 86 近年の家族と介護をめぐる動向に関する次の記述のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

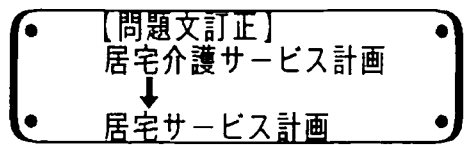
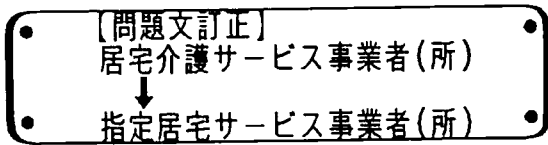
- 1 「高齢者介護に関する世論調査」(内閣府、平成 15 年)によれば、男女とも家族の中では、配偶者に介護を望む割合が高い。
- 2 「国民生活基礎調査」(平成 13 年)によれば、要介護者等のいる世帯の世帯構造は三世帯世帯の割合が最も高い。
- 3 「国民生活基礎調査」(平成 13 年)によれば、同居の主な介護者のうち、男性の割合は約 24 % である。
- 4 「国民生活基礎調査」(平成 13 年)によれば、男性が主な介護者となっている場合、夫の占める割合は息子の占める割合の約 2 倍である。
- 5 「国民生活基礎調査」(平成 13 年)によれば、同居の主な介護者で「ほとんど終日」介護していると回答しているのは約 27 % である。

問題 87 高齢者のうつ状態に関する次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 意欲が低下して動作や反応が鈍くなるという症状によって認知症と誤解されることがある。
- B 身体的な衰えに関連した心気的な訴えが執拗しやくに続く場合には、訴えに対して丁寧な説明は逆効果となる。
- C できないことに注目しがちだが、できていること、行っていることを認めて、それを本人に伝えていくことは基本的な対応である。
- D 高齢者の場合のうつ病の遷延化は、脳の老化が加わることによって、また、慢性の身体疾患が関与する場合に起こりやすい。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | × |
| 2 | ○ | × | ○ | ○ |
| 3 | ○ | × | × | ○ |
| 4 | × | ○ | ○ | ○ |
| 5 | × | ○ | ○ | × |



(老人福祉論・事例問題)

次の事例を読んで、問題 88 から問題 90 までについて答えなさい。

[事例]

A男(77歳)、B子(75歳)の夫婦はJ市で夫婦二人暮らしである。妻のB子は脳梗塞のため入院していたが、状態が落ち着いてきたため、病院から介護老人保健施設への入所を勧められた。しかし、B子は、7年前に別の老人保健施設(現在の介護老人保健施設)に入所していたときに入所者同士のトラブルがあったことから、施設に入所することには否定的で、「施設には入りたくない」と泣きながら訴え、A男は、「妻の介護は、自分がする。他県で暮らす息子夫婦も近くに越してくるようになってい」と述べ、在宅でのA男による介護が始まった。

その後、A男はB子の食事や排泄等の介護を献身的に行っていたが、近くに転居することになっていた一人息子が、勤務先の都合に加えて、妻の母が倒れ、その介護もあり、転居の見通しは立たなくなった。A男は、日ごろから楽しみにしていた近隣の友人と会うことも難しくなり、B子に対して、「もっとしっかりしろ!」と強い口調で声を荒げることも多くなった。

そのような状況の中、A男が病院のC医療ソーシャルワーカーから紹介されて同市の在宅介護支援センターへ相談に来所した。

在宅介護支援センターのソーシャルワーカーであり、介護支援専門員でもあるDワーカーは、A男と初回面接を行った。A男からは、現状の介護の負担は非常に厳しいが、妻にとっても、また、自分にとっても、住み慣れた家で暮らしていたいという強い意向が伺えた。翌日の訪問面接の場面では、A男は「何とか食事だけでも自立して欲しい」と期待を述べ、同席したB子は「施設には入りたくない。息子夫婦が近くに越してこなくなっても二人で暮らしたい」と希望した。A男とB子の共通した願いである在宅生活の継続のために、B子が介護保険制度を利用してA男の負担を軽くする方向が話し合われた(問題 88)。

要介護認定を行った結果、B子は要介護度3であった。Dワーカーは改めて夫婦宅を訪問し、居宅介護サービス計画の作成を行ったが、A男は他人が自宅に入ることを気にして積極的にサービスを利用しようとしなかった(問題 89)。同時にDワーカー

は、病院のC医療ソーシャルワーカーやケアプランで活用する居宅介護サービス事業者に対し、A男とB子を地域で支えていくための方策について適宜連絡や調整を行った(問題90)。

問題 88 このときのDワーカーの対応に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A A男はB子の日常の介護に加えて、慣れない家事などを行っているために介護負担が重い状態にあったため、B子に介護老人福祉施設への入所を勧めた。
- B 一人息子あるいは息子の妻に介護を依頼できないかどうかをA男に再度確認するよう言った。
- C 在宅生活に向けての準備が整わぬ状況で退院したため、在宅生活を可能とするように福祉用具の貸与をはじめ、諸々の手続きについてA男、B子と話し合った。
- D A男と今後の短期的目標並びに中長期的な目標について話し合う中で、A男の希望も含めてケアプランを作成するようにしていくことを伝えた。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | ○ |
| 2 | ○ | × | ○ | × |
| 3 | × | ○ | × | ○ |
| 4 | × | ○ | × | × |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

問題 89 居宅介護サービス計画の作成に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A A男の介護負担軽減やB子の生活支援の観点から通所介護を利用してみてはどうかと勧めた。
- B A男が日常的に相談していた民生委員からもA男の了解を得て情報を収集し、居宅介護サービス計画を作成した。
- C 介護保険サービス以外の市の独自サービスである配食サービスも居宅介護サービス計画に組み入れた。
- D A男の介護負担を軽減することを最優先と判断し、訪問介護を最大限利用するような計画を作成した。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	×
3	○	×	○	×
4	×	○	○	○
5	×	×	×	○

問題 90 居宅介護サービス事業所との連携に関する次の記述のうち、適切なものに
○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選
びなさい。

- A A男がB子に厳しい口調で接していることをそれぞれの居宅介護サービス事業所に説明した。
- B 居宅介護サービス計画書に基づき事業者への連絡をした上で、サービス担当者会議を開催し、今後の支援の方針について検討・確認した。
- C A男、B子にもサービス担当者会議に参加するよう促し、積極的に発言してもらった。
- D 将来的に在宅生活を継続できない状況も想定し、介護老人福祉施設にあらかじめ詳細な情報を提供した。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	○
3	○	×	×	×
4	×	○	○	○
5	×	×	○	○

障害者福祉論

問題 91 次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 発達障害者支援法では、発達障害を「自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するものとして政令で定めるもの」と規定している。
- B 注意欠陥多動性障害の特徴として、①年齢あるいは発達に不釣り合いな注意力、②多動性、③衝動性、ということが指摘されている。
- C 発達障害者支援法による発達障害者支援センターの業務には、専門的な発達支援とともに、就労支援を行うことも含まれている。
- D 文部科学省の調査(平成14年)では、発達障害により学習や行動面で特別な教育的支援を必要とする小中学校に在籍している児童・生徒は、義務教育段階での全児童・生徒の約15%とされている。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | × | ○ | × |
| 3 | ○ | × | × | ○ |
| 4 | × | ○ | ○ | × |
| 5 | × | ○ | × | ○ |

問題 92 障害者の所得保障に関する次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 「特定障害者に対する特別障害給付金の支給に関する法律」は、障害基礎年金等の受給権を有していない障害者に特別障害給付金を支給することにより、その福祉の増進を図ることを目的としている。
- B 「特定障害者に対する特別障害給付金の支給に関する法律」では、特別障害給付金の支給を受ける権利は、老齢基礎年金等を受けることができるまで消滅しないとしている。
- C 「特別児童扶養手当等の支給に関する法律」における特別障害者とは、20歳以上で精神又は身体の重度の障害により日常生活において常時特別の介護を要する状態にある者を指し、所得保障の観点から身体障害者更生施設に入所している者も対象としている。
- D 所得税法における特別障害者は、精神又は身体に重度の障害がある者で政令で定める者であり、控除額がその他の障害者より増額される。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | × |
| 2 | ○ | × | ○ | × |
| 3 | ○ | × | × | ○ |
| 4 | × | ○ | ○ | × |
| 5 | × | ○ | × | ○ |

問題 93 次の事項の組み合わせのうち、正しいものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A 平成 17 年 6 月改正の障害者の —— 精神障害者(精神障害者保健福祉手帳所持者)の雇用義務の規定
雇用の促進等に関する法律
- B 障害者就業・生活支援センター —— 障害者職業総合センター、地域障害者職業センター、障害者雇用支援センターその他厚生労働省令で定める事業主により行われる職業準備訓練のあつせん
- C 身体障害者授産施設 —— 身体障害者で雇用されることの困難なもの又は生活に困窮するもの等を入所させて、必要な訓練を行い、かつ、職業を与え、自活させる。
- D 指定特定知的障害者授産施設 —— 授産活動に従事している知的障害者への労賃の支払い

(組み合わせ)

- 1 A B
2 A C
3 B D
4 B C
5 C D

問題 94 「交通バリアフリー法」に関する次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 都道府県は、基本方針に基づき、単独又は共同して、特定の駅やその周辺の地区を重点的に整備すべき地区として指定し、移動の円滑化のための基本構想を作成しなければならない。
- B 公共交通機関の旅客施設及び車両等の構造及び設備を改善するための措置、旅客施設を中心とした一定の地区における道路、駅前広場、通路その他の施設の整備を推進するための措置その他の措置を講ずることによって、法律の目的を達成することとされている。
- C この法律において「車両等」とは、公共交通事業者等が旅客の運送を行うためその事業の用に供する車両、自動車、船舶及び航空機と定義されている。
- D 主務大臣は、公共交通特定事業が実施されていないと認めるときは、公共交通事業者等に対し、その実施を要請することができる。

(注) 「交通バリアフリー法」とは、「高齢者、身体障害者等の公共交通機関を利用した移動の円滑化の促進に関する法律」のことである。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	×
2	○	×	○	○
3	×	○	○	×
4	×	○	×	○
5	×	×	○	×

問題 95 次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 介護保険制度と同じように支援費制度でもケアマネジャーによるケアプランの作成が法定化されている。
- B 医療的ケアを必要とする重度障害者の地域生活への移行も進む中で、家族以外の者によるたんの吸引が一定の条件の下では容認されるようになった。
- C 障害児教育の分野では、関連機関のネットワーク化や連絡調整に当たる特別支援教育コーディネーターを位置づけ、関係機関との連携協力の体制整備を図ることが重要となっている。
- D 平成17年の介護保険法の改正で、新たに地域包括支援センターが位置づけられ、社会福祉士、精神保健福祉士、保健師それぞれが必置となり、多職種の役割を調整する主任ケアマネジャーも位置づけられ、障害者も支援の対象とされた。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | × | ○ | ○ |
| 3 | ○ | × | × | ○ |
| 4 | × | ○ | ○ | × |
| 5 | × | ○ | × | ○ |

問題 96 次の施設等とそこに配置しなければならない職員の組み合わせのうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 身体障害者療護施設 —— 理学療法士又は作業療法士
- B 知的障害者更生相談所 —— 知的障害者相談員
- C 知的障害者福祉ホーム —— 生活支援員
- D 精神障害者福祉工場 —— 精神科の診療に相当の経験を有する医師

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | × |
| 2 | ○ | × | ○ | × |
| 3 | ○ | × | × | ○ |
| 4 | × | ○ | ○ | × |
| 5 | × | ○ | × | ○ |

問題 97 世界保健機関(WHO)が1980年に出した「国際障害分類(ICIDH)」と、2001年に改定された「国際生活機能分類(ICF)」に関する次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 「国際障害分類」では、「障害」を「機能障害」、「能力障害」、「社会的不利」の3つのレベルに分類した。
- B 「国際生活機能分類」では、「生活機能」を「心身機能・身体構造」、「活動」、「参加」のすべてを含む包括用語とした。
- C 「国際生活機能分類」では、「機能障害」、「活動制約」、「参加制限」という考え方を示し、その総称を「社会的不利」という言葉で整理した。
- D 「国際生活機能分類」では、病気だけでなく、加齢や妊娠なども含む「健康状態」に注目し、さらに「環境因子」や「個人因子」などの「背景因子」にも注目し、それぞれの要素が影響しあう双方向のモデルという考え方を示した。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | ○ | × | ○ |
| 3 | ○ | × | × | ○ |
| 4 | × | ○ | ○ | × |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

(障害者福祉論・事例問題)

次の事例を読んで、問題 98 から問題 100 までについて答えなさい。

[事 例]

A子(29歳)は、小・中学校は普通学級に通い、定時制高校卒業後、地元の工場に就職し、部品組立て等の仕事に従事した。25歳のときに同僚と結婚し、すぐ長男を出産するが、家事・育児が十分にできなかったこともあり、2年ほどで離婚となった。27歳のときに実家に戻るが、当時、父親は脳血管障害後遺症で介護保険のサービスを利用して(要介護度3)。また、母親も手帳は所持していないが軽度の知的障害があると考えられ、娘親子に適切な支援はできなかった。A子はまもなく、「出会い系サイト」で知り合った男性を頼りにし、遊び回るようになった。長男への育児が十分でないという理由から近くの児童委員の紹介により、児童相談所がA子親子の支援にかかわることになる。

児童相談所をはじめ、公的な相談機関がかかわる中で、A子にも軽度の知的障害があることが明らかになり、28歳のとき療育手帳を取得し、障害基礎年金2級と診断された。A子の今後の生活設計などを具体化するために市の福祉事務所が中心となって、関係機関が集まり、支援計画が検討された(問題98)。その結果、障害者職業センターの職業相談などを活用し(問題99)、サービス業に就職した。A子は職場に満足しているが、職場で人間関係のトラブルがあったり、給料が入ると必要もないのに衝動買いをしてしまう、生活費の管理ができない、などの新しい課題が明らかになった。サラ金からの督促状も届くようになり、A子親子の暮らしを守るために、金銭管理などをはじめとする日常生活の支援を確実に行うことが求められてきた(問題100)。

問題 98 この家族には多くの支援機関や専門職がかかわっているが、家族全体を視野に入れた支援計画と、そのキーパーソンを検討するためのケア会議が開かれた。この時点で提案された今後の方向性として、次のような意見の中から、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A この家族に最も長くかかわっている介護保険の介護支援専門員が中心となり、地域の関連機関とすべての情報を共有しながら、家族4人の今後の暮らしを検討する。
- B 長男の育児放棄や、身体的な虐待なども予想されるので、児童相談所のケースワーカーが中心となり、親子を引き離すために家庭裁判所に児童養護施設への入所承認の請求を行うこととした。
- C A子の総合的な支援計画を確立し、その中で母子ともに、地域の中で安心して暮らすために、X地域生活支援センターの障害児(者)地域療育等支援事業のコーディネーターが中心となり、関連機関との連携を強化していくことを検討する。
- D 親子の新しい生活を築くために、実家を出て母子生活支援施設を利用し、その母子指導員が中心となって関連機関と協力し、知的障害者としての支援も受けながら、新しい生活に向けたサービス利用を検討する。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | ○ |
| 2 | ○ | × | ○ | × |
| 3 | ○ | × | × | ○ |
| 4 | × | ○ | ○ | × |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

問題 99 A子の就労支援に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A ジョブコーチによる支援を開始し、段階的にジョブコーチの役割を同僚や上司に移行するように支援する。
- B A子の場合、職場での就業にかかわる支援だけでなく、日常生活への支援が重要との視点から、両者の支援を一体化した「障害者就業・生活支援センター」による支援を行う。
- C A子の職場適応を図る視点から、障害者職業総合センターに職業カウンセラーの派遣を依頼し、A子に対するカウンセリングを定期的を実施する。
- D 事業主は、障害者職業能力開発校に依頼して職場内で職業準備訓練を行い、A子の職場適応を図るよう支援する。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | ○ |
| 2 | ○ | ○ | × | × |
| 3 | ○ | × | ○ | ○ |
| 4 | × | ○ | ○ | × |
| 5 | × | × | ○ | × |

AM12
4折

問題 100 A子に対する成年後見制度や地域福祉権利擁護事業の活用に関する次の記述のうち、適切なものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A 後見人制度を利用するために費用がかかるので、任意後見の費用を補助する成年後見制度利用支援事業の活用を検討した。
- B 日常的な金銭管理の課題を抱えているので、判断能力が不十分であるかを含めて、地域福祉権利擁護事業の活用を検討した。
- C 知的障害が軽度のA子の場合、成年後見制度を活用しても「補助」類型となり、A子の衝動買いなどの問題に対しては効果が期待できない。
- D A子の親亡き後対策という視点から、成年後見制度を活用するに当たって、親とともに、弁護士や社会福祉士などの専門職が「複数後見人」となり、身上監護を親から専門職へと徐々に引き継ぐよう支援する。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A D
- 3 B C
- 4 B D
- 5 C D

児童福祉論

問題 101 我が国の少子高齢社会の動向に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 小さな変動はあるものの、ここ20年間、合計特殊出生率はほぼ低下傾向にあり、平成16年には1.29となっている。
- B 第二次世界大戦以後の年間出生数は、第一次ベビーブームのころが270万人程度、第二次ベビーブームのころが210万人程度であったが、平成12年前後には100万人程度で横ばいとなり、平成16年にはついに100万人を下回った。
- C 昭和25年時点における年少人口(0～14歳)は、老年人口(65歳以上)の7倍以上であった。
- D 最近の日本の合計特殊出生率は、韓国、ドイツ、イタリア、フランスなどと同水準であり、先進諸国の中でも最も低い水準にある。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | × | ○ | × |
| 2 | ○ | × | × | ○ |
| 3 | × | ○ | ○ | × |
| 4 | × | ○ | × | × |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

問題 102 児童の権利に関する条約に見られる児童観として、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 児童の最善の利益という考え方は、児童の権利に関する条約で初めて明らかにされた。
- B 児童の権利に関する条約は、児童の受動的な権利のみならず、能動的な権利も保障しようとしたところに特徴がある。
- C 児童の権利に関する条約では、パターナリズムの考え方にに基づき、国や保護者の養育にかかわる権利や義務が強調されている。
- D 我が国では、児童の権利に関する条約の批准にあたり、児童福祉法の理念をこの条約を尊重した内容に大幅に修正している。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	×
2	○	×	○	○
3	○	×	×	○
4	×	○	○	×
5	×	○	×	×

問題 103 次の文章の空欄A, B, Cに該当する語句の組み合わせとして、適切なものを一つ選びなさい。

昭和初期には、世界大恐慌、東北、北海道の大凶作の後を受けて多くの社会問題が発生した。親子心中だけでも、大正14年から昭和2年まで311件もあり、実子殺し、貰い子殺し、農村子女の身売り等の悲惨な状況の中で欠食児童は20万を超えていた。

こういった状況に対処すべく、昭和4年 が制定され、生活扶助、……(中略)……助産等が実施され、貧児の施設収容も行われた。昭和8年には児童虐待防止法、 が制定され、幼少年の虐待防止を図るとともに、多年の懸案であった要教護児の早期発見に資することとなった。また母子心中、欠食児童の増加等にかんがみ、昭和12年には12歳未満の子を有する貧困母子家庭救済のために、 が生まれた。(厚生省児童家庭局編『児童福祉三十年の歩み(抜粋)』昭和53年)

- | | A | B | C |
|---|----------------------|-------|-------|
| 1 | 恤 ^{じゆつ} 救規則 | 感化法 | 母子保護法 |
| 2 | 救護法 | 少年教護法 | 母子保護法 |
| 3 | 救護法 | 感化法 | 母子保護法 |
| 4 | 救護法 | 少年教護法 | 母子福祉法 |
| 5 | 恤救規則 | 少年教護法 | 母子福祉法 |

問題 104 平成 16 年の児童福祉法の改正(平成 16 年 12 月 3 日法律第 153 号)により新たに制度化された次の事項のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 家庭裁判所の承認に基づく施設入所措置の場合、家庭裁判所は、当該児童の保護者に対し指導措置を採るように、都道府県へ勧告することができるようになった。
- B 児童相談に関し市町村が行う業務を法律上明確化した。
- C 家庭裁判所の承認に基づく施設入所等の措置の期限を 1 年以内とした。
- D 退所した者に対する相談その他の自立のための援助を行うことが、児童養護施設の目的として加えられた。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | ○ |
| 2 | ○ | × | ○ | ○ |
| 3 | ○ | × | × | × |
| 4 | × | ○ | ○ | × |
| 5 | × | ○ | × | ○ |

問題 105 次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 児童福祉法第48条は、児童養護施設の長に対して、入所中の児童を就学させなければならないと規定している。しかし、児童自立支援施設の長に対しては、入所中の児童を就学させてはならないと規定している。
- B 都道府県は、少年法第24条第1項第2号の保護処分の決定を受けた児童については、当該決定に従って児童自立支援施設に入所させる措置(保護者の下から通わせて行うものは除く。)又は児童養護施設に入所させる措置を採らなければならない。
- C 罪を犯した満14歳以上の児童を発見した者は、これを家庭裁判所に通告しなければならない。
- D 児童福祉法でいう「少年」とは、「小学校就学の始期から、満18歳に達するまでの者」をいうのに対し、少年法でいう「少年」とは、「18歳に満たない者」として定義されている。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	×
2	○	×	○	×
3	×	○	○	×
4	×	○	×	○
5	×	×	○	○

問題 106 児童福祉施設最低基準に関する次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 保育所には、児童指導員を置かなければならない。
- B 児童自立支援施設には、児童生活支援員を置かなければならない。
- C 母子生活支援施設には、母子指導員を置かなければならない。
- D 乳児院には、児童指導員を置かなければならない。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | × | ○ | × |
| 3 | ○ | × | × | ○ |
| 4 | × | ○ | ○ | × |
| 5 | × | ○ | × | ○ |

問題 107 放課後児童健全育成事業に関する次の記述のうち、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 実施主体は社会福祉法人、市町村に限定されている。
- B 授業の終了後に児童厚生施設等の施設を利用して適切な遊び及び生活の場を与えて、その健全な育成を図る事業である。
- C 児童福祉法では、対象は小学生及び中学生であって、その保護者が労働等により昼間家庭にいないものとされている。
- D 社会福祉法において、第2種社会福祉事業に規定されている。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | ○ |
| 2 | ○ | × | ○ | × |
| 3 | × | ○ | ○ | × |
| 4 | × | ○ | × | ○ |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

(児童福祉論・事例問題)

虐待を受けた子どもの援助に関する次の事例を読んで、問題 108 から問題 110 までについて答えなさい。

〔事例〕

「父親から身体的虐待を繰り返し受けているために、家に帰りたくない」とA子(中学1年生、父子家庭)が言っている」との通告が、学校から児童相談所にあった。A子については、以前から、身体的な虐待が疑われるとともに、家に帰らず万引きを頻繁に行っているという情報があり、地区担当のB児童福祉司も何度か面接していた。しかし、虐待を受けていることをA子自身が認めないため、地元C市役所に事務局がある要保護児童対策地域協議会で、B児童福祉司を含む関係者による協議を行っていた。その結果、児童委員や学校が中心となって、継続的に情報を集めるとともに、A子が虐待を受けていることを認めた場合には、児童福祉法第33条第1項に基づく一時保護を即座に行うという判断をしていた。

その後、A子本人が身体的虐待を繰り返し受けていることを認めたこと、本人が家に帰りたくないと言っていること、体にいくつもの青あざがあり、やせ細っているという学校からの報告を考慮し、B児童福祉司は、要保護児童対策地域協議会における判断について、児童相談所長と再確認した。予定通り一時保護を行うという方針を決定した上で、「A子を家に帰さないよう」電話で学校に依頼するとともに、直ちに学校に向かい、A子と面接し(問題108)、一時保護した。そのことをB児童福祉司が父親に伝えると、父親はA子の一時保護に強く反発し、子どもを返すことを要求した。

児童相談所における判定会議や援助方針会議での決定に基づいて、B児童福祉司は、一時保護及び児童養護施設等の児童福祉施設への入所の必要性について、父親と3回面接を行ったが、父親との意見の相違を埋めることはできなかった。早期に児童養護施設に入所することが、子どもの最善の利益にかなうと考えた児童相談所は、児童福祉法第28条第1項第1号の申立てを家庭裁判所に行い、家庭裁判所の承認を得て、A子を児童養護施設に措置した。入所当初、父親は娘を返すよう執拗^{よう}に児童養護施設に迫ってきた(問題109)。

施設措置後、A子の生活が安定していることを知り、父親の態度にも変化が見られ

た。父親は面会に来るようになったが、A子は面会を拒否し続けていた。中学3年生となり、高校進学の話が話題になるようになった10月初旬、施設の担当D児童指導員はA子と面接した。その席上、A子は「高校には行きたくないし、家にも戻りたくない」と言った(問題110)。

問題 108 B児童福祉司がこの場面で、A子にかける言葉として、適切なものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A 今まで虐待を受けていたことをなぜ黙っていたの。これからは本当のことを言ってくださいね。
- B 本当の気持ちを伝えてくれてありがとう。これからのことは、一緒にゆっくり考えましょうね。
- C ひどい目にあって、たいへんつらい思いをしたね。でも、万引きをしたのは悪いことだから、これも一緒に直すように頑張りましょうね。
- D とてもつらい思いをしていたね。家に帰りたくない気持ちもよくわかりますよ。

(組み合わせ)

- 1 A C
- 2 A D
- 3 B C
- 4 B D
- 5 C D

問題 109 この場合、児童養護施設が採るべき対応に関する次の記述のうち、適切なものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A 児童養護施設の長には、父親の引取りを拒否する権限がないので、家庭復帰に向け準備する。
- B 児童養護施設は、父親に対し毅然とした対応に努める。
- C 児童養護施設は、必要に応じ警察に対する事前協議を行い、これに基づく連携を取る。
- D 児童養護施設は、実親子関係の重要性を認識し、父親とA子との面会を計画した。

(組み合わせ)

- 1 A C
- 2 A D
- 3 B C
- 4 B D
- 5 C D

問題 110 この時点でD児童指導員は、A子に対してどのようにかかわるべきか。次

の記述のうち、適切なものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A A子の「高校に行きたくないし、家にも帰りたくない」という言葉の真意について聴く。
- B 制度上、進学しないと退所しなければならないことをA子に伝え、高校進学に向け話合いを行う。
- C A子の同意を得て、A子の現時点での思いや意向を父親に伝える。
- D 父親とA子を同席させ、中学卒業後どのようにするか一緒に考える。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A C
- 3 A D
- 4 B D
- 5 C D

社会福祉援助技術

問題 111 社会福祉計画の手法について説明した次の記述のうち、正しいものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A PERT法とは、リラックスした状態で行われるグループ・ディスカッションであり、互いの意見を批判することなく、計画立案のために質より量を重視した提案を重ねていくことで、創造的なアイデアを生み出す議論の手法である。
- B ニーズ推計とは、ニーズを一定の基準でカテゴリーに分類し、それぞれの出現率の推計に基づいて、サービスの種類や必要量を算出し、サービス資源の整備目標を設定する際に用いる手法である。
- C KJ法とは、専門的見解を持つ人々がそれぞれ独自に意見を出し合い、相互参照を行って、再び意見を出し合うという作業を数回行うことにより、一定の合意を得ようとする方法で、アンケート収斂法とも呼ばれている。
- D 費用・効果分析とは、計画されたサービスを実施するために必要となる費用と、それによって達成された効果を相互に関連させて、効率性という視点から分析し、評価する方法である。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A C
- 3 B C
- 4 B D
- 5 C D

問題 112 ソーシャルワークに関する次の記述のうち、適切なものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A 機能主義ケースワークでは、人と環境との生態系に着目して援助が行われる。
- B 課題中心ケースワークでは、援助者が独自の視点から目標となる課題を設定し援助が行われる。
- C アグレッシブ・ケースワークでは、危機的状況にありながらも、自ら進んで援助を求めようとしないクライアントを対象とする。
- D 行動主義ケースワークでは、クライアントの行動変容を目指して援助が行われる。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A C
- 3 B C
- 4 B D
- 5 C D

問題 113 福祉サービスの質の評価に関する次の記述のうち、適切なものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A ドナベディアン(Donabedian.A.)が提唱した、ヘルスケアにおけるサービスの質の評価は、構造、プロセス、アウトカムの3つの側面からなる。
- B ヒヤリ・ハットの事例を収集し、分析した結果を活用することは、介護事故を未然に防ぐための取組として有効である。
- C 平成16年に厚生労働省が示した「福祉サービス第三者評価基準ガイドライン」は、利用者によるサービス評価に重点を置いている。
- D サービスの品質に関する国際標準規格であるISO 9001の認証取得については、福祉サービスは対象外とされている。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A C
- 3 B C
- 4 B D
- 5 C D

問題 114 次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 人間の福利(ウェルビーイング)と社会の変革を進め、人びとのエンパワメントと解放を促していくことが、国際ソーシャルワーカー連盟の「ソーシャルワークの定義」(2000年)で唱えられている。
- B ストレングスアプローチでは、クライアント固有の強さ、クライアントの有する資源や問題解決能力に焦点を当てるアセスメントや介入を行う。
- C ソーシャル・インクルージョンを目指すことが、日本社会福祉士会の倫理綱領(2005年)で、社会に対する倫理責任の一つとして唱えられている。
- D 構成主義アプローチは、個人と社会を客観的実在にとらえ、援助介入の焦点を個人と社会の両方に当てる。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	×	×	○
3	×	○	○	○
4	×	○	×	○
5	×	×	○	×

問題 115 観察技法に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 体型の観察・評価に当たっては、クライアントの心理的アンバランスやストレスの存在、食行動の異常などにも留意することが必要である。
- B 家族関係を観察する上での留意点は、クライアントの家族に対する言葉遣い、態度、礼儀、表情、他者との距離や座る位置に注目することである。
- C ソーシャルワーカーは、自ら相手とかかわる関与者でありながら、同時に相手とかかわり合いを観察する観察者としての立場も持っているということに留意すべきである。
- D クライアントの問題状況の観察では、予断を排除するため、ソーシャルワーカーの自己覚知は必要とされない。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | ○ | × | × |
| 3 | ○ | × | × | ○ |
| 4 | × | ○ | ○ | × |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

問題 116 ソーシャルワークの機能についての次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 社会福祉制度の目的、サービス内容、援助方法を的確に理解し、人々が自らの問題に立ち向かえるような援助を展開する。
- B 人々が自らの意志を明確にして問題解決の能力を高めるように動機づける。
- C 人々が自らを生活問題解決の主体であることを自覚し、ニーズに応じた社会資源を活用できるように、援助を展開する。
- D 人々の安定した生活の実現に向けて彼らの無意識の領域にある葛藤を分析し、治療する。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	×
3	○	×	○	○
4	×	○	×	×
5	×	×	○	○

問題 117 高齢者の家族支援におけるソーシャルワークの視点に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 高齢者とその家族を一つのシステムとしてとらえた場合、家族の相互作用そのものが問題の中心であるとみなし、システムの中で生じる諸変化に焦点を当てる。
- B 支援に当たっては、関係機関の担当者からの客観的情報を優先する場合もある。
- C 高齢者とその家族を取り巻く社会的環境との交互作用を把握するためのアセスメント資料としてジェノグラムを活用する。
- D 高齢者の抱える様々な問題だけではなく、家族の問題に対する取組能力(coping)をアセスメントし、支援計画に反映させる。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | ○ | × | ○ |
| 3 | ○ | × | ○ | × |
| 4 | × | ○ | × | ○ |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

問題 118 シュワルツ(Schwartz.W.)によるグループワーカーの援助活動に関する次の記述のうち、適切なものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A 初回では、あらかじめグループワーカーが設定した援助目標についてメンバーの同意を得る。
- B 援助過程では、主導的な活動により、メンバーに望ましい変化をもたらそうとする。
- C 契約では、グループを作る目的・意義などについてメンバーが合意形成する作業を援助する。
- D 作業過程では、グループのリスクを予測し、問題が起きたときはメンバーとともに立ち向かう。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A C
- 3 A D
- 4 B C
- 5 C D

問題 119 社会福祉調査法に関する次の記述のうち、適切でないものを一つ選びなさい。

- 1 有意抽出法による、少数の限定された標本を対象とした質的調査では、母集団の代表性について統計学的に推定することができない。
- 2 標本統計量と母集団統計量の間には常に標本誤差が存在し、標本調査においてはこれを避けることはできない。
- 3 変数 a と変数 b のクロス集計表について算出されたカイ 2 乗値が、その棄却値を上回った場合は、帰無仮説が棄却され、両変数の関連性が認められる。
- 4 ダブルバーレル質問とは、一つの質問文に二つ以上の要素を含むものであり、一挙に多くの回答を得ることができるため、回答の信頼性を高める上で効果的な質問形式である。
- 5 事例調査における参与観察法とは、調査者自身が調査対象集団と活動や生活をともにしながら、内部から集団を観察し記述する調査法である。

問題 120 保健・医療・福祉等の多職種による連携に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 連携会議では、ソーシャルワーカーはスーパーバイザーとしての役割を果たし、アドバイスなどを行う。
- B 協働作業では、ソーシャルワーカーは自ら立てた援助計画に対して、他の専門職との合意形成に努める。
- C 複数の援助者が同一のクライアントに調整的にかかわることによって、複層的かつ多様な視点から理解、援助が可能となる。
- D 多職種からなるチームの各構成員が援助目標に向けて、それぞれの役割を適切に分担することが求められる。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	×	×	○
3	×	○	○	○
4	×	○	×	○
5	×	×	○	×

問題 121 ソーシャルサポートに関する次の記述のうち、適切なものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A 隣人や友人の共感や励ましを得て利用者に自尊心を回復させるためには、情緒によるサポートを活用する。
- B 利用者に、地域の人たちが相互に提供し合うサービスに関する情報を入手させるためには、評価によるサポートを活用する。
- C 利用者のこれまでの行為や態度を認めて支持的な方向づけを行い、新たな生活設計を立てさせるためには、道具的手段によるサポートを活用する。
- D 利用者が隣人や友人から地域の施設機関の評判を得て今抱えている問題に対する資源の選択を行うためには、情報によるサポートを活用する。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A C
- 3 A D
- 4 B C
- 5 C D

問題 122 ソーシャルワークのアプローチや実践モデルに関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A エンパワメント・アプローチでは、クライアント自身が、問題解決に必要な知識やスキルを習得することを支援する。
- B ナラティブ・アプローチは、クライアントが語るストーリーを重視して、新たな意味の世界を創り出すことを援助する。
- C エコロジカル・アプローチは、生活システムにおける問題の原因について直線的な因果関係に焦点を当て分析し、問題解決を図る。
- D ケアマネジメントでは、クライアントを支援するために、社会資源を有効に活用したサービスの調整を図る。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	○
3	×	○	×	○
4	×	×	○	○
5	×	×	○	×

(社会福祉援助技術・事例問題 1)

次の事例を読んで、問題 123 から問題 125 までについて答えなさい。

〔事例〕

3人の子どもがいる老夫婦(夫75歳、妻70歳)は、長女Y子(40歳)の家族と同居している。家族は仲が良く、Y子の夫は、まじめで働き者である。Y子夫婦の二人の息子は学校での友人との関係もうまくいっていた。末っ子N男は10歳でおばあちゃん子である。

ある日、Y子がN男の学校の担任に相談した。「N男がこのところおばあちゃんの世話をよくするようになって喜んでいました。数日前、風邪をひいたことがきっかけで朝起きることができず、ぐずぐずしていて、遅刻するのは嫌だといい、結局学校に行かなくなり、もう4日になります。おばあちゃんは、4年前に心筋梗塞で倒れて入院したことがあります。最近、また体調を崩して、再発の危険性があり、入院について話し合いをしましたが、今のところ落ち着いているので心配ないです…。おじいちゃんの介護のこともあり、上の子は入試ですし、家族みんなが混乱してしまっていて、N男とも話し合いが十分できないままです。こんな状態のときにN男がちゃんとしてくれればいいのですが…。N男を少し見守ってみようかとも夫と話しているのですが…」

スクールソーシャルワーカーは担任から依頼を受け、相談内容を把握した(問題123)。次に、面接計画を立てた。①このような状況にいる母親の大変さを理解し、彼女の気持ちを整理する。②N男から見た現在の家族の状況について尋ね、N男を理解する。③母親の心配している気持ちをN男に伝え、一緒に面接をする(問題124)。

1か月後、祖父は介護サービスを受けるようになり、祖母は小康状態で、家族が落ち着きを取り戻し、N男は兄とともに登校している。母子面接では、N男が6歳のときに祖母の倒れた場に居合わせており、何もできなかったことへの無力感がトラウマになっているようで、N男は学校に行っている間に祖母がまた倒れるのではないかと心配していたことなどが明らかになった(問題125)。

問題 123 この段階で危機介入による家族状況の把握に関する次の記述のうち、適切でないものを一つ選びなさい。

- 1 危機状況にあるのは家族全員である。
- 2 Y子は、N男と十分話していないので、N男のことが理解できないでストレス状況にある。
- 3 まじめな父親の態度がN男の不登校に影響している。
- 4 祖母の入院についての話合いがN男に祖母の世話をする役割を奪われる不安を与えている。
- 5 N男の不登校には、祖母の病気など家族の不安が影響している。

問題 124 スクールソーシャルワーカーがこの状況下で行うY子との面接に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 担当医からの祖母の病状についての説明に関し、Y子がN男に伝えた内容を尋ねる。
- B 祖父の介護に当たってサービスの活用計画について尋ねる。
- C N男の現在の状況に対するY子の分析と判断について尋ねる。
- D 祖母が4年前に倒れたときの家族の状況とそのときのN男の状況を詳しく尋ねる。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | ○ | × | ○ |
| 3 | ○ | × | ○ | × |
| 4 | × | ○ | × | × |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

問題 125 この場面における終結の決定条件に関する次の記述のうち、適切なものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A N男のトラウマは、再発の可能性がある、他機関につなぐことも視野に入れて終結を決定する。
- B Y子から得た家族の現状に関する情報で、終結を決定する。
- C Y子やN男とともにこれまでの経過を振り返り、その結果に対する彼らの合意を得て、終結を決定する。
- D 祖母の病状は今後変化すると考えられるので、終結はできないと判断する。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A C
- 3 A D
- 4 B C
- 5 B D

(社会福祉援助技術・事例問題 2)

障害児がいる家族への課題中心アプローチによる支援に関する次の事例を読んで、問題 126 から問題 128 までについて答えなさい。

〔事例〕

T子(6歳・女兒)は、高熱を出し、^{けいれん}痙攣発作を起こした後、意識障害が生じた。入院中のT子について、担当医師から病院のソーシャルワーカーに依頼があった。T子は、結婚歴15年の父親(40歳)、母親Mさん(38歳)と3人暮らしである。

Mさんが病院の相談室に思い詰めたようにうつむきかげんで入室し、しばらく沈黙があり、「これまでずっと泣くのをこらえてきました」と、現在と将来の不安や看病疲れ、娘の元気なときの様子を泣きながら話し始めた。さらに続けてT子の今回の病気を機に家族問題が発生したこと、しばしばT子のことをめぐって夫と口論になっていることを話した。加えて夫の面会が減っているのは娘の状態を見るに忍びないのだと思うと夫へのいたわりを示しながらも、Mさんは家族問題をなんとか解決したいと言った。

数回の面接を通して、Mさんは母親として、妻として努力している気持ちを整理でき、現状での取り組むべき具体的課題が明らかになった。その中で最も優先的に取り組む課題として「Mさんの看病疲れの軽減」を取り上げ、ソーシャルワーカーはMさんとともにこれを確認した(問題126)。それに対する計画は①Mさんと週1回のサポート面接実施の取り決め、②病棟でのT子に対する看護体制の調整、③Mさんと病棟ボランティア活用についての合意形成である(問題127)。

その後も医療費の助成制度や社会資源の活用、また、T子とのかかわりや今後の療養先の計画などについて、Mさんや夫に個別面接を行い、彼らとともに取り組む課題を決定した。夫は、娘の病状を心配し、娘の顔を見るのがつらいことなどを話していたが、次第に心の整理ができたことでT子の世話をし始めた。

在宅療養の準備のために医療担当スタッフが家族指導を行い、地域の関係機関との連携を図った。援助開始から2か月後、T子の病気は徐々に回復に向かい、それとともにMさん夫婦も精神的に安定してきた。近いうちに自宅退院となることが決まった(問題128)。

問題 126 Mさんの対処能力に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A T子の看病を行うことで母親としての役割を遂行している。
- B 自らの感情を、場をわきまえて表出することができる。
- C 身体に対するストレスを意識し、自ら対処を試みようとしている。
- D 妻としての役割を果たせていない自分を認めている。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | ○ | × | ○ |
| 3 | ○ | × | ○ | ○ |
| 4 | × | ○ | × | × |
| 5 | × | × | ○ | × |

問題 127 次の記述のうち、Mさんに対する援助として、課題中心アプローチによるものに○、そうでないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A Mさんとともに具体的に取り組む課題を設定し、その優先順位を明らかにした。
- B Mさんと週1度のサポート面接の実施を取り決めた。
- C T子のために病院として病棟保育士の導入を図った。
- D T子の見守りのために病棟ボランティアの活用についてMさんが合意した。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | ○ | × | ○ |
| 3 | ○ | × | ○ | × |
| 4 | × | ○ | × | ○ |
| 5 | × | × | ○ | × |

問題 128 この家族への課題中心アプローチの効果に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A Mさんは自分の力で取り組むことができた。
- B 両親に個別支援を行い精神的安定を図ることができた。
- C 地域の関係機関との連携や調整を行い在宅療養体制が整った。
- D 夫婦関係に介入した結果、離婚を回避させることができた。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	×	○	○
3	○	×	×	○
4	×	○	○	○
5	×	○	×	×

(社会福祉援助技術・事例問題 3)

次の事例を読んで問題 129 から問題 131 までについて答えなさい。

〔事例〕

ある日、知的障害者更生施設に勤務するX生活支援員(以下、「ワーカー」という。)は、中程度の知的障害をもつKさん(35歳)とその母親(70歳)の訪問を受け、面接を行った。

Kさんは、約20年前に父親を亡くし、その後は母親とともに暮らしてきた。Kさんは養護学校高等部を卒業してからは、家から徒歩10分の作業所に通ってパン作りをしてきた。支援費制度が始まってからは、週2回ヘルパーに来てもらい部屋の掃除や外出時の同行をしてもらっている。母親のほかにKさんを引き取れるような親族はいない。母親は高齢になり持病もあるため、Kさんの身の回りの世話をすることが次第に困難になってきているので、Kさんの将来を不安に思い、施設への入所を考えるようになった(問題129)。

Kさんは入所当初、新しい環境で、初めての集団生活に、表情も硬く、落ち着かない様子であった。また、対人関係の作り方がうまくなく、仲間と打ち解けることがなかなかできなかった。ワーカーはKさんの希望を聞き、施設で行っている5つの作業班のうち、パン作りの作業班にKさんを配属した。当初、Kさんはほかの利用者をライバル視し、協力して作業を行うことができなかったり、嫌がらせをしてイライラをぶつけたりしていた。しかし、週に一度は母親が面会に来ることや、同じ年ごろのRさんと親しくなったことにより、3か月が過ぎたころから笑顔が見られるようになった。ワーカーは、Kさんの2年先までの生活を見据えた新しい個別支援計画の作成を担当することになり、Kさんに「将来はどのような生活を送りたいですか」と聞いた(問題130)。

Kさんのパン作りの技術は高いので、対人関係上のトラブルさえなければ、その技術を生かして将来的にはパン工房などへの就職も可能かもしれない。しかし現在のKさんは、将来の就労について思いをめぐらせることは難しいようである。ワーカーはKさんに地元にあるパン工房への訪問やグループホームへの体験入居を勧めている(問題131)。

問題 129 この面接からのアセスメントに関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A Kさんは、社会資源を利用していない。
- B 親族からのソーシャルサポートは、あまり期待できない。
- C 長年Kさんの世話をしてきた母親は、一定の支援能力を有する。
- D Kさんの将来についての母親の不安が強い。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | × | × | × |
| 3 | × | ○ | ○ | ○ |
| 4 | × | ○ | × | ○ |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

問題 130 この場面におけるKさんへの支援に関する次の記述のうち、適切なものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A 施設の中で友人ができたので、友人関係作りを支援する。
- B この施設で仕事のやり方を学び、その後は施設を出て、住み慣れた地域で生活できるようにする。
- C 家族からの自立支援として、ここでの集団生活に早く適応できるように、家族に面会を控えてもらう。
- D 施設における5つの作業班それぞれの技術を習得させることを目標にする。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A C
- 3 B C
- 4 B D
- 5 C D

問題 131 Kさんに対して今後さらに展開させるべき援助活動に関する次の記述のうち、適切なものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A パン作りのチームで自らの役割を果たし、協調することを働き掛ける。
- B Kさんの対人関係のトラブルはKさんの母親の不安が影響しているので、母親との関係を調整する。
- C 利用者との交流を促し、Kさんにパン作りの技術を教えるリーダーの役割を与える。
- D イライラをぶついたりしないように、感情のコントロールの方法を学ばせる。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A C
- 3 A D
- 4 B C
- 5 C D

(社会福祉援助技術・事例問題 4)

次の事例を読んで、問題 132 から問題 134 までについて答えなさい。

〔事例〕

特別養護老人ホーム(以下、「ホーム」という。)で仕事をしている S 生活相談員(30 歳、女性、社会福祉士、以下、「S 相談員」という。)の母(70 歳)は、夫を早く亡くしたにもかかわらず、日ごろから「子どもに迷惑をかけたくないの、できるうちは自分一人で生活する。できなくなれば福祉のサービスを選んで活用する」と言って、子どもに頼らず一人暮らしを続けている。S 相談員は、常々このような母を誇りに思い、自分もあのように年を取りたいと考えていた。その一方で、そんな母が時折、寂しそうにしているのを見ると「本当に一人で暮らさせていいのかなあ」と心配していた。

ある日、ホームでは、車いすで生活をしている R さん(70 歳、女性)が他の利用者と折り合いが悪いということが、会議で問題になり、S 相談員が面接を行うことになった。初回面接で R さんは、時折訪ねてくる子どもたちが勝手に自分をホームに入れたと怒っていた。そして、「子どもは何があっても親の面倒を見るべきなのに。あんただって、まさか親をホームに入れるつもりじゃないだろうね。あんた親の気持ちを分かるかい」と R さんが S 相談員に向かって言い続けたので、面接の間中、S 相談員はまるで母から責められているかのように感じていた(問題 132)。

しかし、気を取り直して S 相談員は、何故、R さんがそのような考えに至ったのかを聞き始めることにした。すると R さんは、「職人だった夫は当てにならず、今まで私一人で子どもたちを育ててきたようなもの。それなのにこんな身体になったとたん、子どもたちは私をないがしろにしてホームに入れたのよ。…しかもホームの生活は合わないし楽しくない。なぜ他の人たちが平気で生活しているのかわからない」と涙ながらに話をした。S 相談員は、自分の母の生き方を思い浮かべながら、どうして R さんがそんなにまで子どもに頼るのが理解できなかった。しかし、その日は、ひとまず R さんの今の気持ちを確認し面接を終了した。S 相談員は、R さんの支援を考えるに当たって、アセスメントを早急にしなければならないと考え始めていた(問題 133)。

同時に S 相談員は、初回面接でなかなか R さんの考えに共感的理解ができなかった自分、特に専門職として振る舞うことのできなかった自分を責めていた(問題 134)。

問題 132 この場面において、S相談員自身の対処に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A Rさんの気持ちに触れずに、当初の問題状況を聞くように努める。
- B Rさんの気持ちとS相談員の母への気持ちを混同しないように努める。
- C 専門職としてRさんに共感的理解をすることに努める。
- D Rさんの言動は、子どもとの関係から出たことと、とらえることに努める。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	×
3	○	×	○	×
4	×	○	○	○
5	×	×	×	○

問題 133 この場面でS相談員が集める情報に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A Rさんの入所に至るまでの経過記録に目を通す。
- B Rさんと他の入所者との関係について調べ、具体的課題を確認する。
- C 「ないがしろにされた」ことへの対処の仕方について、Rさんが気づくための質問を行う。
- D Rさんの気持ちに沿い、Rさんの施設での生活状況について尋ねる。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | ○ | × | ○ |
| 3 | ○ | × | ○ | × |
| 4 | × | ○ | × | ○ |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

問題 134 この場面で、S相談員が直後に採るべき対処行動に関する次の記述のうち、適切なものの組み合わせを一つ選びなさい。

- A 面接方法についてコンサルタントから指導を受ける。
- B 職場のスーパーバイザーにこのような自分の価値観について話す。
- C 専門家による講演会に参加し、専門職としての自己研鑽^{さん}に励む。
- D 職場内でスーパーバイザーを交えながら同僚たちの意見を聞く。

(組み合わせ)

- 1 A B
- 2 A C
- 3 A D
- 4 B C
- 5 B D

(社会福祉援助技術・事例問題 5)

障害児の親の会に関する次の事例を読んで、問題 135 から問題 137 までについて答えなさい。

[事 例]

Y市の子育て相談センターを訪問したEさんの息子は、小学1年で知的障害児である。EさんはEさんの母親と息子の3人暮らしで、夫とは離婚している(夫に親権はない)。Eさんは、育児に自信がもてないでいる。相談を受けたソーシャルワーカー(以下、「ワーカー」という。)は、当センターで開催している障害児の親の会への出席を勧めた(問題 135)。

会合にはEさんは初めての参加であるが、Fさん、Gさん、Hさんは以前からの参加である。ワーカーは助言者として加わった。以下は一通りの自己紹介が終わったときの会話である。

E：子どもは、特別支援学級でお世話になっています。担任の先生は、他の障害をもったお子さんも複数もたれていて、とても大変そうです。うちの子の個別指導なんて無理みたいで相談するのも気が引けます。支援学級の親御さんとは少しは話しますが、挨拶程度で込み入った話はしません。ここでは、障害をもった子どもの教育法やしつけ方などは皆さん教えていただけないのでしょうか？

F：Eさんは、ずいぶん前向きなのね。私なんか自分の気持ちの整理がつかなくて…。

G：Fさん、前回も、私たちの気持ちを話し合いましたよね。

H：私は、他の親の会に参加しているのですが、そこではこのような率直な話し合いはしませんよ(問題 136)。

(中略)

H：次回のことなのですが、みんなの体験をもっと話し合いませんか。

E：あの…、母親として、育児にも自信がもてなくなってきました…皆さんはいかがですか。

G：Eさんのお気持ちはよく分かりますよ。ここでは、お互いの気持ちを分かり合えればいいですね(問題 137)。

次回の会合で話し合う内容についてお互いに確認し、会合を終了した。

問題 135 次の記述のうち、この時点におけるワーカーの確認すべき事柄として、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 育児に対するEさんの母親の協力について確認する。
- B Eさんが子どもの障害をどの程度受容しているかを確認する。
- C Eさんの前夫に連絡を取り、育児に関する意見を確認する。
- D 育児における具体的問題点について確認する。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | ○ | × | ○ |
| 3 | × | ○ | × | ○ |
| 4 | × | × | ○ | ○ |
| 5 | × | × | ○ | × |

問題 136 次の記述のうち、この場面におけるワーカーの対応として、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A Eさんが障害をもつ子の教育法やしつけの仕方について関心を向けていることについてもう少し話をしてもらう。
- B Fさんが自分の気持ちを吐露しやすい雰囲気づくりを行う。
- C Gさんには前回の話合いの内容について説明するように勧める。
- D Hさんに他の親の会の内容について詳しく話をするように促す。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | ○ | × | × |
| 3 | ○ | × | ○ | ○ |
| 4 | × | ○ | ○ | × |
| 5 | × | × | × | ○ |

問題 137 この時点でのワーカーの助言に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A Eさんに話すことができた気持ちについて次回も深めるように促す。
- B GさんがEさんの気持ちに理解を示したことを評価する。
- C 参加者全員が完全に気持ちを分かり合えたことを賞賛する。
- D 一人一人の発言の内容については口外しないようにと助言する。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	○
3	○	×	×	○
4	×	○	○	×
5	×	×	○	○

(社会福祉援助技術・事例問題 6)

次の事例を読んで問題 138 から問題 140 までについて答えなさい。

〔事例〕

Tさん(58歳、男性、無職)は、妻と息子との3人暮らしである。半年前に脳梗塞を患い、S総合病院で3か月間の治療後、左半身麻痺の後遺症を残し、自宅での療養生活を始めた。ADL上は一定の回復が図られ、退院時には要介護度1と判定された。しかし、自宅に戻ってからの生活では、Tさん自身のリハビリテーションへの意欲は見られず、月一度の定期的な通院も理由をつけてしなくなった。そのことを心配した妻はS総合病院のAソーシャルワーカーに相談し、その結果、Tさんに日中の生活の幅を広げることが提案され、Tさんは、S総合病院のAソーシャルワーカーが事前に連絡をしておいたデイケアセンターを訪ねることにした。

そこで、デイケアセンターのBソーシャルワーカー(以下、「Bワーカー」という。)が、Tさんに関するインテーク面接を行った(問題138)。Tさん夫妻がデイケアセンターの見学を終えた後に、Tさんと個別に相談の場を設け、直接Tさんからデイケアを利用するに当たっての気持ちを尋ねた。すると、Tさんは開口一番、「私はもうどうなってもいいと思っている。それなのに、妻は何かと言っては私を外に出そうとする。私はそっとしておいてほしいのに…」とつぶやくような声で話した(問題139)。

さらにBワーカーは、Tさん自身がどのような生活をし、また、今後どのような暮らしを望んでいるのかについて尋ねた。すると、Tさんは「そんなことはもうどうでもいい。私のことなんか放っておいてほしい。どうせ、自分が邪魔者になっているのは分かっているのだから。」と興奮した声で話した(問題140)。

問題 138 この場面において、Bワーカーが留意しなければならない点に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A Tさんと妻のデイケアセンターへの訪問目的を確認する。
- B デイケアの機能について説明する。
- C Tさんの現在の状況やTさんの気持ちを理解することに努める。
- D 今後の居宅介護支援計画の合意を得るようにする。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	×	×	○
3	×	○	○	×
4	×	○	×	○
5	×	×	○	×

問題 139 この場面におけるBワーカーの応答について、次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 「家族の方が皆さん心配していますから、期待に添えるようがんばりましょう。」と励ます。
- B 「病院に通院しなくなった原因を聴かせてください。」と尋ねる。
- C 「今の気持ちをもう少し詳しくお話ししていただけますか。」と言う。
- D Tさんの孤独な気持ちを傾聴し寄り添う。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	○
2	○	×	○	×
3	×	○	○	×
4	×	○	×	○
5	×	×	○	○

問題 140 この場面でのBワーカーの対応に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A このようなTさんの態度に即座に対応して、Tさんをなだめる。
- B このようなTさんの態度は、Bワーカーの質問がTさんを刺激したからだと判断し、対応する。
- C このようなTさんの態度を受容し、Tさんの気持ちを理解するよう努める。
- D 話題を変えて、Tさんにデイケアの感想を尋ねる。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	○
2	○	×	○	×
3	×	○	○	×
4	×	○	×	○
5	×	×	○	×

介護概論

問題 141 高齢者の自立支援に関する次の記述のうち、適切でないものを一つ選びなさい。

- 1 失禁しやすいために外出を拒む高齢者の外出を支援するための一つの方法として、オムツの利用は有効である。
- 2 麻痺のある人の補助具は、機能障害を補い、行動範囲を拡大するのに有効である。
- 3 寝たきりの高齢者の失った機能に目を向けるのではなく、残っている機能を最大限活用するよう支援する。
- 4 何とか歩ける高齢者の転倒を予防するために、屋内で車いすを常用するように指導する。
- 5 認知症高齢者の日常生活の自立を促すため、調理、洗濯、買物などに主体的に参加できるよう支援する。

問題 142 次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A B型肝炎の利用者が使用する食器は、使い捨てのものにする。
- B 訪問介護員は、利用者の異常発生時に備え、主治医など医療機関との連携を密にしておく。
- C 高齢者の脱水は、様々な疾患の発症や悪化の原因になる。
- D 骨粗鬆症の原因の一つにカルシウム不足があげられるが、日本人のカルシウム摂取量は多いため問題はない。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | × | ○ | × |
| 3 | ○ | × | × | ○ |
| 4 | × | ○ | ○ | × |
| 5 | × | ○ | × | ○ |

問題 143 次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 訪問介護計画のアセスメントに当たっては、利用者の介護ニーズの緊急性や優先度が考慮されなければならない。
- B 訪問介護計画は、居宅サービス計画に沿って作成しなければならない。
- C 訪問介護計画は、家族の意思や利益を優先したサービスを円滑に提供できるように作成しなければならない。
- D 訪問介護計画に基づく介護過程の評価は、訪問介護のサービスの質を高めるために役立つ。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	○
3	○	×	○	×
4	×	○	×	○
5	×	×	○	○

問題 144 人工肛門のある人に対する訪問介護員の介護に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 泥状便になって装具(パウチ)から便が漏れ、皮膚がただれたため、水分の摂取量を半分に減らす。
- B 「おなかが張る」と訴える人には、人工肛門部から市販の洗腸液を注入する。
- C 入浴中に人工肛門開口部から湯が入るのを防ぐために装具(パウチ)を付ける。
- D 人工肛門周囲の皮膚の清潔のためには、水と石けんを使って清潔にし、石けん分を拭き取った後、乾燥させる。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | ○ |
| 2 | ○ | ○ | × | × |
| 3 | ○ | × | ○ | ○ |
| 4 | × | ○ | ○ | × |
| 5 | × | × | × | ○ |

問題 145 次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 硫黄入りの沐浴剤は、老人性乾皮症の人には使用を避ける。
- B 寝たきり状態で少量ずつ便失禁が続く人には、おむつ交換のときに温湯を使って清拭や洗浄を行う。
- C 寝たきり状態で褥瘡がある人には、入浴は禁忌である。
- D 取り外しのできる義歯は、口腔内に装着したまま、歯ブラシでブラッシングする。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | ○ |
| 2 | ○ | ○ | × | × |
| 3 | ○ | × | ○ | ○ |
| 4 | × | ○ | × | × |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

問題 146 感染症の感染経路とその予防に関する次の組み合わせのうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A インフルエンザ ————— 飛沫^{まつ} ————— 手洗いとマスク着用
 B 疥癬^{かいせん} ————— 接触 ————— リネンの熱湯消毒
 C O-157(腸管出血性大腸炎) ——— 食物への付着 ——— 食物の加熱調理
 D MRSA(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌) ——— 輸血 ————— 使い捨て手袋の使用

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | ○ | × | × |
| 3 | ○ | × | ○ | ○ |
| 4 | × | ○ | × | ○ |
| 5 | × | × | ○ | × |

問題 147 嚥下障害に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×
をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 体位工夫としては、体幹が後傾し、頸部を伸展した状態とする。
- B 嚥下反射の弱い人には、冷水を浸した綿棒で舌などを刺激する訓練方法がある。
- C むせやすい人の誤嚥予防のため、嚥下した直後に、大きな咳払いをしてもらう方法がある。
- D 座位での食事介助中に食物をのどに詰まらせてしまった場合は、上体を前に屈ませ背中を強く叩く方法がある。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | × |
| 2 | ○ | × | ○ | ○ |
| 3 | ○ | × | × | ○ |
| 4 | × | ○ | ○ | ○ |
| 5 | × | ○ | × | × |

問題 148 次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 高齢者が寝たきりになる原因に、脳血管障害、大腿骨頸部骨折、^{せきつい}脊椎圧迫性骨折などがある。
- B 長期仰臥位の状態が続くと、^{てん}臀部に褥瘡が起こりやすい。
- C 褥瘡の予防には、定時の体位変換とともに、栄養の管理、皮膚の清潔が重要である。
- D 在宅で生活する高齢者の褥瘡を予防するマットは、介護保険制度を利用すると1割負担で購入できる。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × | ○ |
| 2 | ○ | × | ○ | × |
| 3 | ○ | × | × | × |
| 4 | × | ○ | ○ | × |
| 5 | × | × | ○ | ○ |

問題 149 コミュニケーションの特徴や介護方法に関する次の記述のうち、適切なものに○、適切でないものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 高齢で難聴になった場合、手話によるコミュニケーションが有効である。
- B パーキンソン病患者の発語の特徴は、単調で抑揚のない話し方で、早口で話すこと等である。
- C 認知症高齢者に正しい判断を要求する質問を繰り返し行うことは避ける。
- D 何度も同じ話を繰り返す認知症高齢者に対して、同じ話を繰り返したらすぐに話題を変えるようにする。

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | × | × | ○ |
| 3 | × | ○ | ○ | × |
| 4 | × | ○ | × | ○ |
| 5 | × | × | ○ | × |

問題 150 指定訪問介護事業所における次の常勤職員のうち、サービス提供責任者に選任できる要件として、正しいものに○、誤っているものに×をつけた場合、その組み合わせとして正しいものを一つ選びなさい。

- A 社会福祉士
- B 介護福祉士
- C 介護支援専門員
- D 訪問介護員養成研修の1級課程の研修を修了した者

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	○
3	○	×	×	×
4	×	○	×	○
5	×	×	○	○